

## 平成 19 年度化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム(案)

(第 10 回 化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム、  
第 6 回 小児等の環境保健に関する国際シンポジウム)

### 1. 概要

行政が実施している化学物質対策全般(環境中化学物質濃度の測定、化学物質のリスク評価、化学物質についての審査・規制等)について、国民に広く普及するため、化学物質の内分泌かく乱作用に関するテーマを中心に、毎年 1 回「化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム」を開催してきた。平成 18 年度は「小児等の環境保健に関する国際シンポジウム」と合同で釧路にて開催した。

平成 19 年度は、化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム開催 10 年目の節目にあたり、化学物質の内分泌かく乱作用について統括することを予定している。

### 2. 日時

平成 19 年 12 月 9 日(日) 13:00~13:30

開会式

13:30~16:30

一般向けシンポジウム

10 日(月) 9:30~18:00

専門家セッション 1~3

平成 19 年 12 月 9 日・10 日 パネル展示

展示予定：環境省、日本化学工業協会、地元自治体はじめ協力団体、  
(日本環境協会)

### 3. 会場

大宮ソニックシティ

埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5

TEL: 048-647-4111

(JR 大宮駅より歩行者デッキにて直結・徒歩 3 分)

<http://www.sonic-city.or.jp/>

#### 4. プログラム(案)

平成 19 年 12 月 9 日(日)

13:00~	開会式 主催者挨拶 協力者代表挨拶 来賓代表挨拶	
13:30~	シンポジウム 「化学物質の内分泌かく乱作用について(総括)(仮)」 司会 (座長)北野 大(明治大学) 基調講演 世界における化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組	WHO の取組 井上 達(国立医薬品食品衛生研究所) 米国の取組 Jim Kariya(アメリカ合衆国 EPA) EU の取組 Hans Christian Stolzenberg (ドイツ環境庁) OECD の取組 青山 博昭(残留農薬研究所)
15:00 ~ 16:30	パネルディスカッション 化学物質の内分泌かく乱作用について(総括) パネリスト	井口 泰泉(自然科学研究機構) 井上 達(国立医薬品食品衛生研究所) 渡邊 信(筑波大学)(調整中) (産業界)(日本化学工業協会推薦者) (市民団体)有田芳子(主婦連合会) (行政)木村博承(環境省)
17:30~	レセプション	

平成 19 年 12 月 10 日(月)

9:30 ~ 11:30	セッション 1+2 セッション 1 コーディネーター 発表者	化学物質の内分泌かく乱作用に関する基礎的な研究(仮) 野生生物と環境・水性生態系への影響(仮) 井口 泰泉(自然科学研究機構) 4 名程度
13:30 ~ 14:50	セッション 2 コーディネーター 発表者	In vivo/ in vitro 試験系における試験研究の現況(仮) 遠山 千春(東京大学) 3 名程度
15:00 ~ 18:00	セッション 3 コーディネーター 発表者	小児環境保健に関する疫学調査について(仮) 佐藤 洋(東北大学) 4 名程度

#### 5. 協力依頼先(案)

埼玉県、さいたま市、他協力団体(さいたま市医師会、さいたま商工会議所等)

(参考)これまでの開催地

第 1 回京都市、第 2 回神戸市、第 3 回横浜市、  
第 4 回つくば市、第 5 回広島市、第 6 回仙台市、  
第 7 回名古屋市、第 8 回沖縄県(那覇市、宜野湾市)、  
第 9 回釧路市